

(19) Japanese Patent Office (JP)

(12) Registered Utility Model Gazette (U)

(11) Utility model registration No.:

3040121

(43) Date of registered: May 21, 1997

(45) Date of Issue: August 15, 1997

(51) Int. Cl. ⁵	Discern. Code	JPO Ref. No.	F1		
A61K 7/00			A61K 7/00	U	
				L	
7/48			7/48		
		8717-4B	C12N 15/00	A	

Request for Evaluation: Not requested
Number of claims: 4 FD (10 pgs in total)

(21) Application No.: Jitsugan Hei9-784

(22) Date of Filing: January 31, 1997

(73) Owner of the Utility Model right: 390011017
Daiya Seiyaku Kabushiki Kaisha of
530, Tobocho, Hibara-shi, Nara

(72) Creator: Daizo MORIKANE of
50-1, Tobocho, Hibara-shi, Nara

(74) Agent: Yoshiaki MORI; Patent Attorney

(54) Title of the Utility Model A Sheet-like pack

(57) Abstract

[Purpose]

This create provides a sheet-like pack that is capable of shortening the film formation time, making the formed film highly stronger and removing stratum corneum reliabli.

[Constitution]

The sheet-like pack has a structure consisting of a permeable sheet-like base (1) and a film-formational cosmetic layer impregnated in, and immobilized at said base (2), wherein said film-formational cosmetic layer (2) comprises polyacrylic acid or a film-formational base containing polyacrylic acid and plurane as primary components. This structure enables the film to be speedily formed in a short time and brought into a highly stronger form, thereby yielding its good adhesiveness to the skin.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3040121号

(45) 発行日 平成9年(1997)8月15日

(24) 登録日 平成9年(1997)5月21日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K 7/00	U
	7/48		7/48	L

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願平9-784

(22) 出願日 平成9年(1997)1月31日

(73) 実用新案権者 390011017

ダイヤ製薬株式会社

奈良県橿原市東坊城町503番地

(72) 考案者 守金 大蔵

奈良県橿原市東坊城町50-1番地

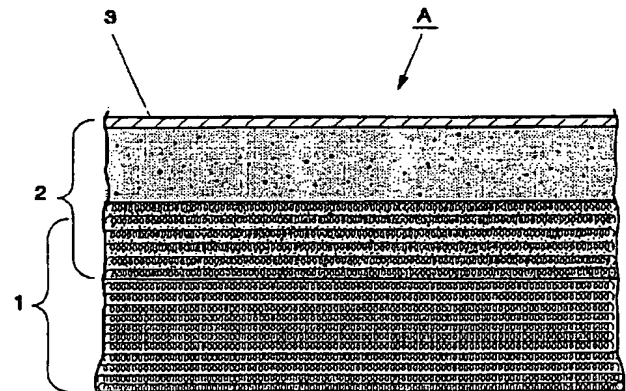
(74) 代理人 弁理士 森 義明

(54) 【考案の名称】 シート状パック

(57) 【要約】

【目的】 被膜形成に要する時間が短くかつ形成される被膜の膜強度が非常に高く、角質を確実に除去できるシート状パックを提供するにある。

【構成】 透湿性シート状基材(1)と該シート状基材(1)に含浸・担持される被膜形成性化粧料層(2)とからなり、上記被膜形成性化粧料層(2)にはポリアクリル酸又はポリアクリル酸とプルランを主成分とする被膜形成性材料が配合されており、これによって短時間で被膜が形成されると共に被膜の膜強度が高くかつ皮膚への接着性が良好となる。



1

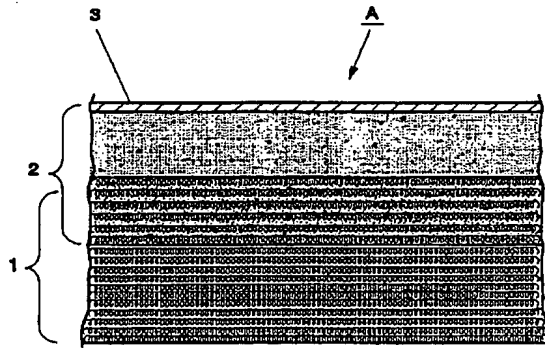
【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 透湿性シート基材と、該シート基材に含浸・担持される被膜形成性化粧料層とからなり、上記被膜形成性化粧料層に含まれる被膜形成性材料がポリアクリル酸を主成分とすることを特徴とするシート状バック。

【請求項2】 ポリアクリル酸が、被膜形成性化粧料層中に1～98重量%（乾燥重量）の割合で含有されてなる請求項1記載のシート状バック。

【請求項3】 透湿性シート基材と、該シート基材に含浸・担持される被膜形成性化粧料層とからなり、上記被膜形成性化粧料層に含まれる被膜形成性材料がポリアクリル酸及びプルランを主成分とすることを特徴とするシート状バック。

【図1】



2

【請求項4】 ポリアクリル酸及びプルランが、被膜形成性化粧料層中に1～98重量%（乾燥重量）の割合で含有されてなる請求項3記載のシート状バック。

【図面の簡単な説明】

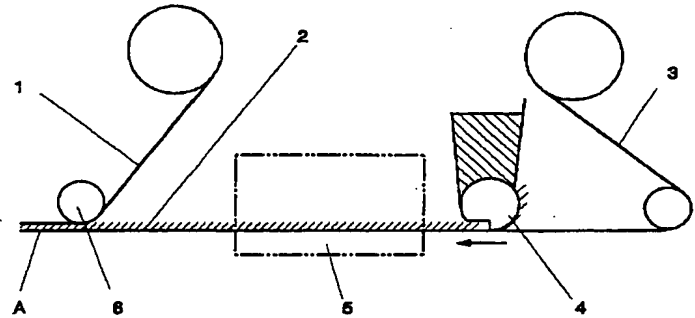
【図1】 本願『請求項1』にかかるシート状バックの一例の要部概略断面図

【図2】 本願『請求項1』にかかるシート状バックの製造法の一例の模式図

【符号の説明】

- 10 (A) …シート状バック
 (1) …透湿性シート状基材
 (2) …被膜形成性化粧料層
 (3) …剥離フィルム

【図2】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案はピールオフタイプのシート状パックの改良に関する。

【0002】

【従来の技術】

ピールオフタイプのパックは、皮膚表面に被膜を形成して皮脂を吸収したり皮膚に緊張を与えかつ血行をよくすると共に、その後この被膜を皮膚から剥がすことにより垢や角栓等を除去することができるもので、エモリエント効果及び清浄効果が期待できるものである。

このようなピールオフタイプのパックとしては、従来、ゼリー状、ペースト状のものが汎用されていたが、最近では、被膜の強度、被膜形成時間の短縮化、ケアに伴う手の汚れや煩雑さの減少等の観点から、シート状パックが考案されている。

【0003】

上記ピールオフタイプのシート状パックとしては、例えば、特開平7-330575号公報に開示されているものを挙げることができる。

このシート状パックは、被膜形成性化粧料と透湿性基材からなるもので、形成される被膜が強固な接着力を有する点を1つの特徴としている。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は、さらに膜形成に要する時間が短くかつ非常に強固な接着力を発揮するピールオフタイプのシート状パックを提供するにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

かくして本願『請求項1』にかかる考案によれば、『透湿性シート基材(1)と、該シート基材(1)に含浸・担持される被膜形成性化粧料層(2)とからなり、上記被膜形成性化粧料層(2)に含まれる被膜形成性材料がポリアクリル酸を主成分とすることを特徴とするシート状パック(A)』が提供される。

【０００６】

また、本願『請求項３』にかかる考案によれば、『透湿性シート基材と、該シート基材に含浸・担持される被膜形成性化粧料層とからなり、上記被膜形成性化粧料層に含まれる被膜形成性材料がポリアクリル酸及びプルランを主成分とすることを特徴とするシート状パック』が提供される。

【０００７】

本願『請求項１』にかかるシート状パック(A)によれば、被膜形成性化粧料層(2)にはポリアクリル酸が被膜形成性材料の主成分として含有されているので、被膜が迅速に形成されると共に形成される被膜の強度及び皮膚へ接着力が強く、角栓や垢等は確実に膜中に捉えられることとなる。

またピールオフする際にも膜強度が強いので途中で千切れることもない。

【０００８】

本願『請求項３』にかかるシート状パックによれば、被膜形成性化粧料層にはポリアクリル酸及びプルランが被膜形成性材料の主成分として含有されているので、被膜がより迅速に形成されると共に形成される被膜の強度及び皮膚へ接着力がより強く、角栓や垢等は確実に膜中に捉えられることとなる。

またピールオフする際にも膜強度が強いので途中で千切れることもない。

【０００９】

【考案の実施の形態】

本考案で用いられる透湿性シート基材(1)は、被膜形成性化粧料層を含浸・担持できかつ水分・湿分を透過させる機能を有するもので、さらに皮膚に対して悪影響を与えないものであれば、当該分野で公知のものをそのまま用いる事ができ、例えば、綿、麻、羊毛等の天然繊維、ナイロン、ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ポリエステル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリウレタン、ポリアクリル等の合成繊維、レーヨン、アセテート等のセルロース繊維等の繊維からなる織布・不織布・編み物等の布が挙げられ、中でも疎水性繊維から構成されるものが好適に用いられる。

【００１０】

上記透湿性シート基材(1)は、更に柔軟性・伸縮性を有するものが皮膚外面の

形状に無理無く沿って皮膚との密着性を高める点から好ましい。

また、上記透湿性シート基材(1)は、連続気泡を有する樹脂発泡シートであってもよい。

【0011】

本考案における被膜形成性化粧料層(2)は、被膜形成性材料及び化粧料から主として構成される。

上記被膜形成性材料は、ポリアクリル酸を主成分とするものと、ポリアクリル酸及びプルランを主成分とするものが用いられる。

上記前者の場合は、本願『請求項2』に示すように、ポリアクリル酸が被膜形成性化粧料層全体の1～98重量%（乾燥重量）の範囲となるように用いられる。上記上限含量よりも多い場合は保湿性、接着性、使用感等の点で好ましくなく、上記下限含量よりも少ない場合は膜強度が不十分となる点で好ましくない。

一方、上記後者の場合は、本願『請求項4』に示すように、ポリアクリル酸及びプルランの合計が被膜形成性化粧料層全体の1～98重量%（乾燥重量）の範囲となるように用いられる。上記上限含量よりも多い場合は保湿性、接着性、使用感等の点で好ましくなく、上記下限含量よりも少ない場合は膜強度が不十分となる点で好ましくない。また、プルランはポリアクリル酸に対して5～80重量%の範囲で用いられることが好ましいが、別段これに限定されない。

【0012】

また、上記被膜形成性材料には増粘剤が適宜加えられていてもよい。該増粘剤としては、例えば、カルボキシメチルセルロース、ペクチン、ゼラチン、キサンタンガム、アルギン酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、カラギーナン等が挙げられる。

【0013】

また、上記被膜形成性化粧料層(2)に配合される化粧料としては、保湿剤、油分等公知のものが挙げられる。

上記保湿剤としては、例えば、エチレングリコールの他、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール等のポリエチレングリコール類、プロピレングリコールの他、ジプロピレングリコール、トリプロピレングリコール等のポリプロピ

レングリコール類、ブチレングリコール類、グリセリン、ジグリセリン、その他のポリグリセリン類、ソルビトール、マンニトール、キシリトール、マルチトール等の糖アルコール類、グルコース、フラクトース、ガラクトース糖の単糖類、マルトース、ラクトース糖の多糖類糖が挙げられるが、別段これらに限定されない。

【0014】

また、油分としてはいわゆるエモリエント成分として知られているものが相当し、例えば、スクワラン、流動パラフィン等の炭化水素、オリーブ油、ホホバ油、ヤシ油等の天然油、イソプロピルミリステート、セチルイソオクタノエート等のエステル類、シリコーン油、イソステアリン酸、オレイン酸等の高級脂肪酸等が挙げられる。

【0015】

さらに、上記被膜形成性化粧料層(2)には、収斂剤、美白成分、消炎成分、色素、顔料、界面活性剤、殺菌剤、防腐剤等が適宜添加されていてもよい。

【0016】

本考案の被膜形成性化粧料層(2)は、十分な水の存在下では流動性が付与されかつ乾燥状態では被膜が形成され得るように調製される。

【0017】

実施例1

図1は、本願『請求項1』にかかるシート状パックの一例の要部概略断面図である。

同図のシート状パック(A)は、透湿性シート状基材(1)と該シート状基材(1)に含浸・担持された被膜形成性化粧料層(2)と、該被膜形成性化粧料層(2)の表面に貼着されているポリエステル製の剥離フィルム(3)とから構成されている。

【0018】

上記シート状基材(1)は、ポリエステル製繊維素材からなる不織布にて構成されている。

被膜形成性化粧料層(2)は上記シート状基材(1)の一方の表面に担持されており、かつこの表層部内にも含浸されている。

【0019】

上記被膜形成性化粧料層(2)を構成する化粧料溶液は以下の配合に基づいて調製されている。

《配合》 (本品原液 100 g 中)

ポリアクリル酸	15 %
メチルパラベン	0.1%
ポリビニルピロリドン	3.0%
ソルビトール70%液	5.0%
グリセリン	5.0%
酸化チタン	5.0%
ポリオキシエチレンソルビタンオレート〔20E.0〕	20 %
精製水	適 量

合計 100 %

《調製法》

被膜形成性成分であるポリアクリル酸、ポリビニルピロリドンを適量な精製水に攪拌機を用いて均一に液状化させ、次いで残りの精製水に酸化チタン、グリセリン、ソルビトール、ポリオキシエチレンソルビタンオレート〔20E.0〕、メチルパラベンを加えてよく攪拌し、これを前者に加えてさらに良く攪拌して均一な被膜形成性化粧料を得た。

【0020】

上記シート状パック(A)は、例えば以下のようにして製造することができるが、これに限定されるものではない。

すなわち、図2に示すように、一方にシート状基材(1)を巻回したシート状基材供給ローラを用意し、他方に剥離フィルム(3)を巻回した剥離フィルム供給ローラを用意し、これらの供給ローラの間においてナイフコータ又はコンマコータ(4)及び熱風乾燥炉(5)を設定する。

【0021】

剥離フィルム供給ローラから送出された剥離フィルム(3)上にコンマコータ(4)

により被膜形成性化粧料溶液を一定の厚さで塗工し、これをその後段に設けられた熱風乾燥炉(5)内を通過させてセミドライ状態まで乾燥させた後、シート状基材供給ローラから送出されたシート基材(1)を上記乾燥された被膜形成性化粧料層上にプレスローラ(6)により圧着させて所定深さまで含浸させた後、巻き取りローラによって巻き取って行く。

これにより、シート状基材(1)の一方の表面側に所定深さの含浸層を形成して担持された被膜形成性化粧料層(2)が形成されることとなる。

【0022】

以上のようにして、シート状基材(1)の一方の表面層に被膜形成性化粧料層(2)が含浸・担持されかつこの被膜形成性化粧料層の外面が剥離フィルム(3)によって被覆された形態の本発明のシート状パック(A)が得られることとなる。

【0023】

上記得られたシート状パック(A)は、適用部位に適合する大きさ・形状に適宜カットされて用いられる。

まず、皮膚の適用部位に指で一様に薄く水または化粧水を塗布し、この上から、上記カットされたシート状パック(A)から剥離フィルム(3)を剥離して露呈された被膜形成性化粧料層(2)を押し当てる。

この場合、該パック(A)の透湿性シート状基材(1)は柔軟な素材であるので適用象部位がどのような曲率を有していても、ピッタリと沿わせることができる。

【0024】

一方、含浸・担持されている被膜形成性化粧料層(2)は接触した水分によって溶解されて皮膚表面に接触するが、水分移動が早いので、溶解された被膜形成性化粧料成分は速やかに被膜を形成する。

従って、透湿性シート状基材(1)の一端をもって適用部位から引き剥がす際、形成された被膜は膜強度が高くかつ透湿性シート状基材(1)に所定深さまで強固に結合しているので、皮膚への剥がれ残しを生ずることなく、皮膚から完全に剥離することができる。

また、皮膚との接着強度が強いので、角栓等を確実に除去することができる。

【0025】

実施例 2

本例は、本願『請求項 3』にかかるシート状パックの一例についてのものである。

本例のシート状パックは、被膜形成性化粧料層の組成を下記のごとく変更する以外は実施例 1 と同様に実施した。

【0026】

上記被膜形成性化粧料層を構成する化粧料溶液は以下の配合に基づいて調製されている。

《配合》（本品原液 100 g 中）

ポリアクリル酸	10 %
プルラン	5.0%
メチルパラベン	0.1%
ポリビニルピロリドン	3.0%
ソルビトール 70 % 液	10 %
グリセリン	5.0%
酸化チタン	5.0%
ポリオキシエチレンソルビタンオレート [20E.0]	2.0%
精製水	適 量

合計 100 %

《調製法》

被膜形成性成分であるポリアクリル酸、プルラン、ポリビニルピロリドンを適量な精製水に攪拌機を用いて均一に液状化させ、次いで残りの精製水に酸化チタン、グリセリン、ソルビトール、ポリオキシエチレンソルビタンオレート [20E.0]、メチルパラベンを加えてよく攪拌し、これを前者に加えてさらに良く攪拌して均一な被膜形成性化粧料を得た。

【0027】

以上の構成にて得られる本例のシート状パックは、実施例 1 と同等の技術的効果を奏することができる。

【0028】

【考案の効果】

本願考案のシート状パックは、被膜形成性化粧料層の被膜形成に要する時間が短くかつ形成される被膜の膜強度が高く、その上皮膚への非常に強い接着性を示すので、被膜形成後引っ張って剥がしても、被膜形成部位に剥がれ残りが生ずることなく、確実に角質を除去することができる。